

2022年10月

民俗 No. 25

けんぱくものしりシート

もく

たん

木

炭



解説員

こちらは、昭和の初めころの初冬の北上山地
で木炭を作っている若い夫婦の様子です。ナラなどの森林資源の豊かな岩手では、昔からさかんに炭焼きが行われてきました。
昭和20年代後半には、年間約20万トンが生産され「木炭王国」ともよばれました。現在も全国生産量日本一をほこっています。

久慈市山形町



ハクちゃん

1890(明治23)年以降、
東北本線などが開通す
ると、岩手県の木炭は沿
岸部の港や鉄道の駅か
らも東京などの大都市
に出荷されて
いたそうだよ。



ケンくん

岩手は黒炭の生産が多い！

木炭は、焼く温度の違いによって
黒炭と白炭に分けられます。黒炭は
400~700度の土のかまで焼かれ、黒くて火がつ
きやすくやわらかい。白炭は1000度をこえる石
のかまで焼かれ、白くてかたく火はつきにくい
が長持ちするという特徴があります。





ところで、木炭ってどういうもの？

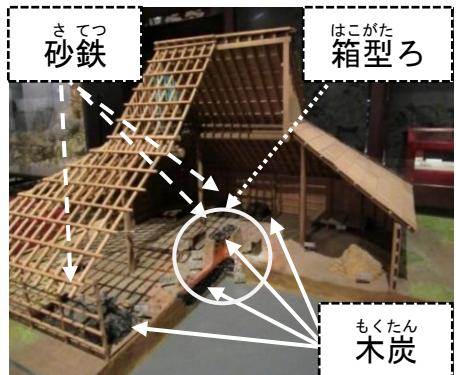


木炭は木を蒸し焼きにしたものです。調理や暖ぼうの燃料には、今はガス・石油・電気が使われていますが、昔は木炭やまきなどでした。特に木炭はけむりが出ず、火が長持ちし、高い温度で燃えるなどの長所があります。まきはかまどで、木炭は火ばちやこたつなどで使われました。木炭は、えんとつが作りづらい木造りの家や、温暖で雨が多く、湿度が高い日本の風土にとても合っていたようです。いっぽう、気候がかんそうしているヨーロッパでは、えんとつを作りやすい石造りの家に住み、まきを暖ろで燃やす方法がさかんになりました。

更に、木炭の役割は家庭用の燃料だけではありません。



そういえば江戸時代のたら製鉄の模型で木炭を見たよ。世界遺産に登録された釜石市の橋野鉄鉱山でも木炭を使っていたよね。なぜなの？



砂鉄や鉄を含む石(鉄鉱石)と木炭をまとめて燃やすと、鉄だけを取り出すことができます。これを製れんといいます。製れんには、木炭が必要でした。近くの山から木炭を調達できたことが、昔から岩手で鉄づくりがさかんになる理由でもあったのですね。

他にも木炭には湿度の調整や土の性質の改良、におい消しなどの使い方があるようです。



木炭は昔も今も人々の暮らしを支える
地球にやさしい大切なものなんだね。



かるまいまちたまがわてつざん
せいてつもけい
軽米町玉川鉄山のたら製鉄模型

参考『火と炭の絵本-火おこし編・炭焼き編-』農山漁村文化協会 2006年 / 『燠窯-岩手県木炭協会 50年のあゆみ』
岩手県木炭協会 2003年 / 岩手県ホームページ いわてお国自慢(木炭) ほか

「けんぱくものしりシート」の内容は発行当時のものです。最新情報ではございませんので、あらかじめご了承ください。
「けんぱくものしりシート」は解説員が執筆しております。



モッちゃん



岩手県立博物館

〒020-0102 岩手県盛岡市上田字松屋敷34
Tel. 019-661-2831 Fax. 019-665-1214
<http://www2.pref.iwate.jp/~hp0910/>